

- ・小中学生を対象に課外授業でD-I-Gや防災教育などを行っている。女性や障がい者等の団体にもマイ・タイムラインなどの訓練を実施している。

〈地震や水害時に対する意識を、各自がどのように備えておけば良いのでしょうか？〉

- ・地震の備えとしては、先ず自宅の耐震化や家具等の転倒防止により、地震に強い家にするのが大切である。
- ・大雨の時は屋外の防災無線は聞こえにくいので、防災ラジオを各家庭に設置しておいた方がよい。防災ラジオは、市から借りられることを周知する。

- ・新しいハザードマップが各戸配布された。ハザードマップで示されるリスクの意味と、自分の住んでいる場所がどんな状態であるかを確認しておく。また、その中にマイ・タイムラインも掲載されているので、いざという時のために活用できるように備えてほしい。

〈今後は女性も防災活動に参画していく必要があると思うが？〉

- ・地元の防災会で女性委員の増員を要請した。5名の女性委員ができ、副会長も女性の方をお願いしている。結局、男女ともこのような活動は男性がやるものという考えがある。この意識改革をやっていかなくては

けない。

- ・女性の参画だけでなく、子ども達特に中学生に関わってもらいたい。防災意識を高めることを子どもから大人へ広げていくのがいいのではないかと思う。県のジュニア防災士の養成にも防災士が関わっていくことになる。

〈市民の方に知っていただきたいことは？〉

- ・防災対策を何も実施していないという世帯が4割程度あり、若い世代では半数以上という報告がある。防災について自分事として捉えていくという考え方が大切である。先ずは家族の命と生活を守ること。

- ・これから起こり得る南海トラフ巨大地震に対し、1週間分の食料・水・トイレなどの備えをしてほしい。また、中学生をはじめとした若い世代の力をどう取り入れていくかが重要だと思う。自助、共助を中心に地域での助け合いが必要となる。

〈議会や行政に知ってほしいことや伝えたいことは？〉

- ・避難所の場所や設備について、再度真剣に検討し、都市計画の中での治水対策も着実に実施してほしい。
- ・減災対応について、行政主導から市民自らが行動を起こす方向へ議会として導いてほしい。

- ・災害対策や対応に関し、縦割り行政の感がある。防災センターの設置など、平時から横断的・継続的に対応できるようなことも検討してほしい。

ご協力ありがとうございました。

〈取材協力〉

猪又 猛さん	伊藤 芳男さん
落合 岐良さん	北沢 俊一さん
石井 水穂さん	藤原万起子さん
杉山 哲昭さん	



※3 [HUG(ハグ)] H(hinanzo 避難所) U(unei 運営) G(game ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味
避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けたもの